

## 会議録

会議の名称	第1回 西東京市都市計画マスタープラン中間見直し策定委員会
開催日時	平成24年10月29日 午前9時30分から11時30分まで
開催場所	防災センター6階 講座室2
出席者	委員：市賀委員、糟谷委員、紺野委員、讃岐委員、田中委員、中村委員、根上委員、丸木委員、村田委員 事務局：伊藤都市整備部参与、湊都市計画課長、山田まちづくり総合調整特命主幹、伊佐美課長補佐、乙幡主事、並木主事 パシフィックコンサルタンツ株式会社 松本技術課長、小松課長代理、増原、村井 傍聴者：1名
議題	議題 (1) 都市計画マスタープランの概要と中間見直しの考え方について 議題 (2) 都市計画マスタープランの中間見直しにおける視点について
会議資料の名称	資料 (1) 都市計画マスタープランの概要及び現行マスタープランの概要 資料 (2) 都市計画マスタープラン見直し検討に際して西東京市の考え方 資料 (3) 西東京市都市計画マスタープランの中間見直しにおける視点 資料 (4) 資料編
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録    発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶</p> <p>3. 依頼書交付</p> <p>4. 委員挨拶 委員各位より自己紹介</p> <p>5. 委員長副委員長選任 委員： 学識経験者である根上委員が適任であると考え、推薦したい。</p> <p>事務局： 根上委員、了承していただけるか。</p>	

根上委員：

了承した。副委員長は委員長が推薦するとのことなので、讃岐委員を副委員長に指名したいが、讃岐委員、了承していただけるか。

讃岐委員：

了承した。

## 6. 議題

### 【会議上のルールについて】

事務局より策定委員会設置要綱を説明

事務局：

議事録は発言者の発言内容別要点記録としたいが、いかがか。

委員長：

会議録は事務局提案の通り、発言者の氏名は記載せず、発言者の発言内容別要点記録とする。傍聴については、内容によっては非公開とすることも可能であるが、基本的には問題ないとする。本日は1名の傍聴者がいる。入室を認めてもよいか。

(委員の了承をもって、傍聴者入室)

#### (1) 都市計画マスタープランの概要と中間見直しの考え方について

- ・事務局より資料1・2を説明

※質疑・意見なし。

#### (2) 都市計画マスタープランの中間見直しにおける視点について

- ・事務局より資料3・4を説明

委員：

土地の立ち退き問題が農業や商業に及ぼす影響も考慮してほしい。

委員長：

今回は、マスタープランの見直しであり、具体的な事業化に向けた検討は、その後に進めることになるだろう。もちろん、マスタープランの策定にあたっては、実現性は考慮する必要があると考えている。

委員：

現行の都市計画マスタープランにも記述のある「活力ある産業が息づくまちの形成」は今後も重要である。

委員：

資料2の改定計画の役割3にもあるように、今後は、持続可能な都市づくりを念頭においたまちの維持管理・マネジメントが重要である。これまでの都市計画マスタープランでは、まちや道路を“つくる”ことが中心であったが、今後はつくったものの“維持管

理”が一つのポイントとなると考えている。マスタープランの中で、道路の維持管理をどのように位置づけるかを考える必要がある。

委員：

西東京市は、幹線道路を外れると道が細く消防車両の通行が困難となるので、少しでも整備を進めたい。資料4の4ページに「大規模災害時への対応」の記述があるように、東日本大震災を契機に、地域防災計画や企業の防災計画の見直しが進められている。多くの帰宅困難者の発生が予想されるため、対応が必要である。

委員長：

安全・安心なまちづくりに対する関心が高まっている。そう言ったことから都市農地の保全是防災面からも重要であり、市民生活に密着している。

委員：

現行計画策定時には予想していなかったリーマンショックや東日本大震災を受けて見直しが必要である。防災面において、緊急時の食料供給や災害協力農地など農地の重要性が増しており、農家と行政で協定を結んでいる。農地などの空間の確保と、その空間を緊急時に利用できるしくみづくりについても考える必要がある。

委員：

災害対策については、「高齢者」と限定せずに市全体を災害に強いまちにする視点が重要だと思う。また、「徒歩、自転車、バスによる駅アクセス利便性の高いまち」という視点については、自転車と歩行者との関係性をどう考えていくのか。歩道の共有の危険性をどのように軽減していくのか。特に自転車による歩行者への危険性軽減が喫緊の課題と考える。資料3にある公園面積が多摩地域13市の中で13番目という点も、コミュニティ形成や安全・安心の側面からすると問題であり、公園面積の確保も重要なポイントとなるのではないか。

委員：

子育て中の母親の多くが、移動手段として自転車を利用しているため、資料2にあるポイント2の公共交通・自転車のネットワーク形成には注目している。

委員長：

低炭素社会の実現においても、自転車という交通手段は有効である。これまでは、自転車も交通弱者として扱われてきたが、ここ最近では歩行者を巻き込む事故が増加しており、歩行者交通との関係性を考える必要がある。

委員：

西東京市は市民活動団体の数は多いが、東京全体では休止している団体も多数ある。多摩地区においては移動サービスの廃業があります。志を持って市民サービスを行っているので、行政との連携を明確に位置づけてほしい。また、活動が行政と重複しないよう連絡を取り合っていきたい。市内には坂の勾配がきつい場所やエレベーターのない集合住宅などがあり、今後より一層の高齢者対策が必要なので、この点もこの計画のどこ

かに入れてもらいたい。

委員長：

市民活動が活発であるからこそ、行政の活動支援は重要である。市民や事業者が活動しやすい都市をつくることも重要となる。

副委員長：

ゾーンごとの現状とポテンシャルを把握することが必要である。高齢化が進む中で安全・安心が重要になるが、災害弱者の現状値と10年後を見通した数値の把握が必要であろう。昼間人口も含め、弱者を支える若年層が、現状どのように地域に展開しているのか、将来どう展開できるのかも考える必要がある。

委員長：

コンパクトシティとしての都市構造と低層住宅地を中心とした住宅都市の価値向上との整合性が重要であり、これを考慮した都市再編に取り組みたい。資料2の4点の方向性をより具体的に検討し、生活圏ごとにどのような都市空間を創造し、どのような都市サービスが展開できるかを示す必要がある。防災面からは、帰宅困難者についての意見も出たが、災害が起きた時にどのように対応するかという検証も必要となる。首都直下型地震時における西東京市の果たす役割も考える必要がある。

事務局：

本日いただいた数値の把握などの意見については、宿題とさせていただき、改めて次回委員会で提示できればと思う。

## 7. その他

事務局：

会議録案文を確認いただくため、後日、メールもしくはFAXにて送付する。次回の日程については、調整のうえ、お知らせする。